

An aerial photograph of Kawasaki City, Japan, showing the city's layout along the Sagami River and the surrounding coastal area. In the background, the snow-capped peak of Mount Fuji is visible under a clear blue sky. The city features a mix of urban development, industrial zones, and green spaces.

川崎市の地球温暖化対策について

令和3年6月19日
川崎市環境局地球環境推進室

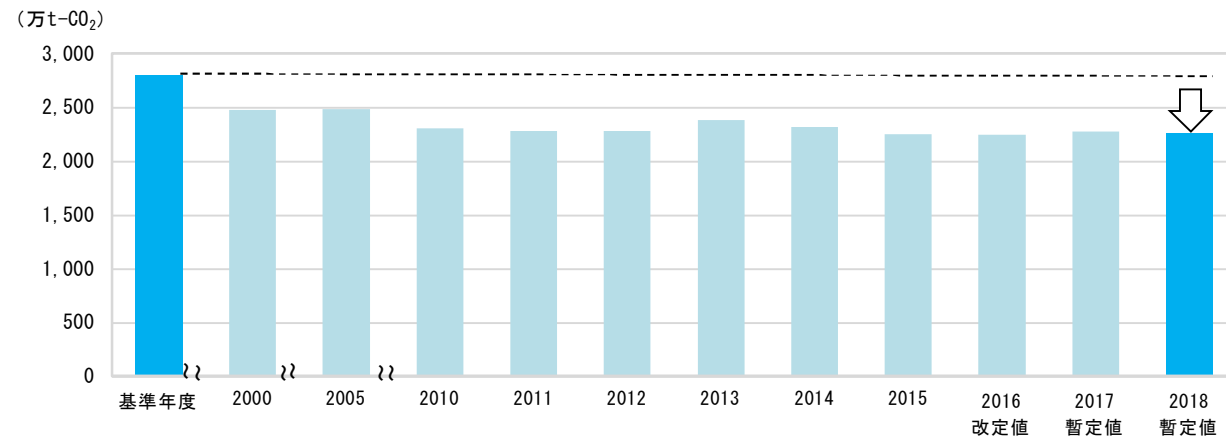
- 1 川崎市の地球温暖化対策について
- 2 脱炭素戦略について



川崎市の温室効果ガス排出量の推移

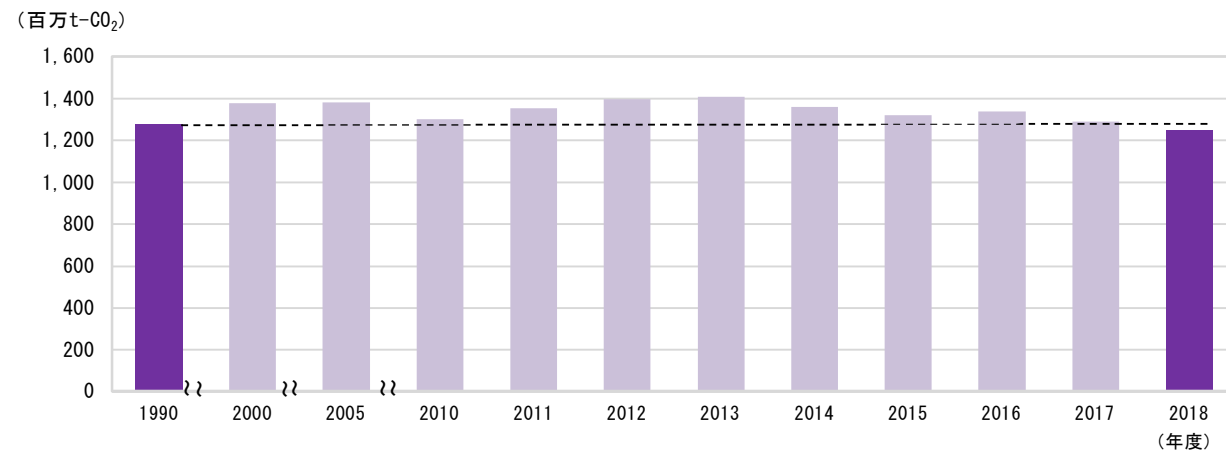
川崎市域内の温室効果ガス排出量については基準年度(1990年度)との比較では減少している。

市内温室効果ガスの排出推移



90年度から
19.3%減少

【参考】国の温室効果ガスの排出推移

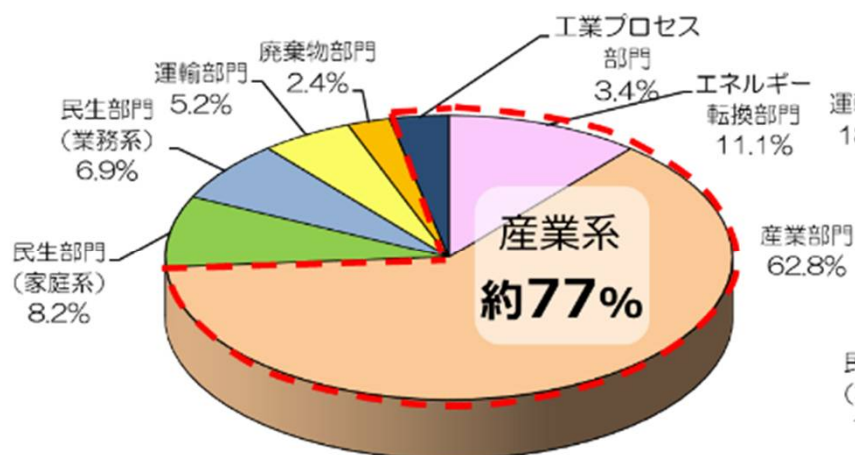


国は
90年度から
2.2%減少

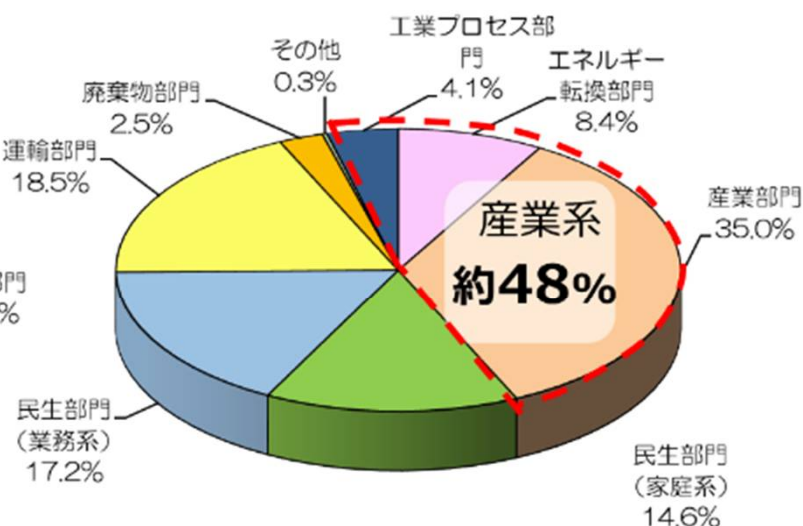
市内部門別の二酸化炭素排出量の内訳

二酸化炭素排出量の部門別構成比を見ると、産業部門が最も高く、本市の特徴になっている。(工業プロセス、エネルギー転換、産業の3部門で全体の4分の3)

市内部門別の二酸化炭素の内訳
(2018年度暫定値)



全国の部門別の二酸化炭素の内訳
(2018年度)



産業系で全体の4分の3以上

部門別二酸化炭素排出量の推移

部門別の排出量の推移を見ると、民生部門（家庭系・業務系）は、人口増加や商業施設・オフィスビルの床面積増加などにより、基準年度である1990年度比で増加したが、産業系はなどそれ以外の部門は、事業者の取組の成果や産業構造の変化などにより減少した。

民生部門（家庭系）：一般家庭

民生部門（業務系）：オフィスビル、商業施設

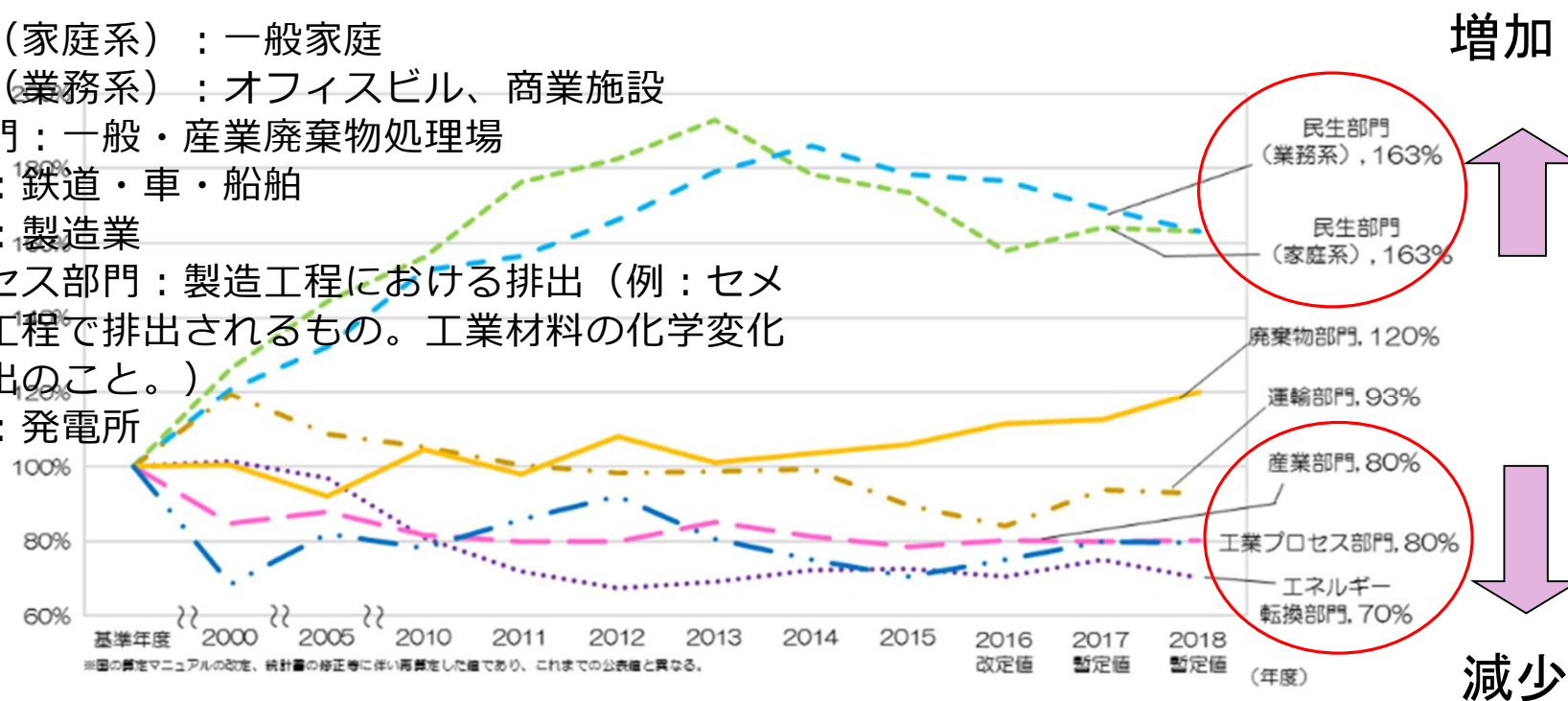
廃棄物部門：一般・産業廃棄物処理場

運輸部門：鉄道・車・船舶

産業部門：製造業

工業プロセス部門：製造工程における排出（例：セメント製造工程で排出されるもの。工業材料の化学変化に伴う排出のこと。）

転換部門：発電所





市内の優れた環境技術による 産業振興・温室効果ガスの削減

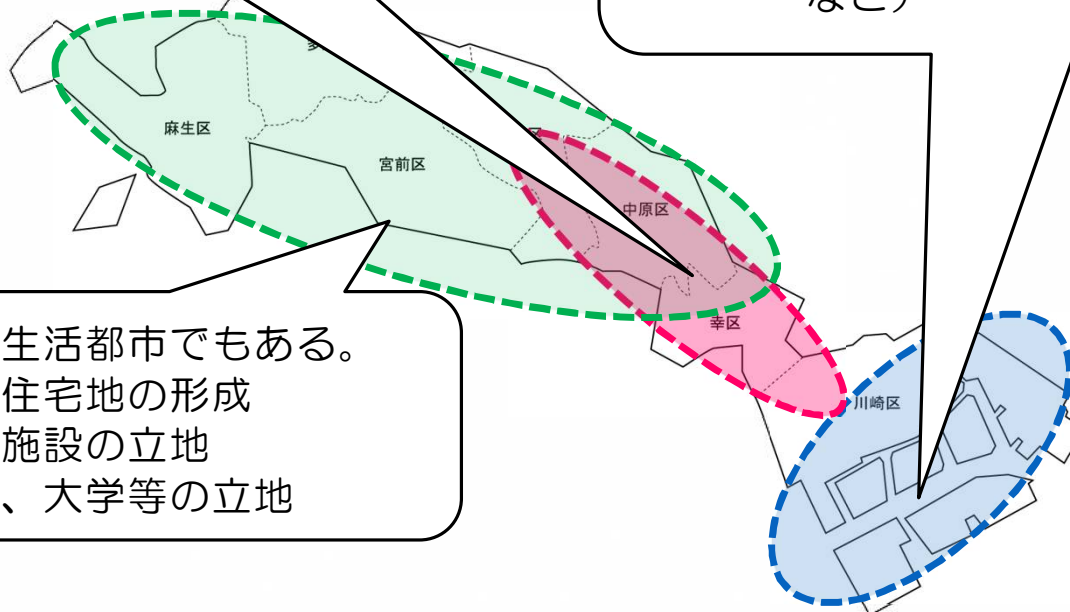
川崎市の特徴

6

電気電子・自動車等の
工業製品生産基地
(東芝、NEC、富士通など)

重化学工業地
(JFEスチール、ENEOS、
昭和電工、旭化成、味の素
など)

川崎市は大生活都市でもある。
・大規模な住宅地の形成
・社会福祉施設の立地
・研究機関、大学等の立地



- 川崎市は、日本有数の製造業集積都市であり、公害問題の経験を通じて培われた環境技術に加え、ものづくりの伝統を土台とした約400の研究開発機関が集積する先端技術開発拠点都市です。

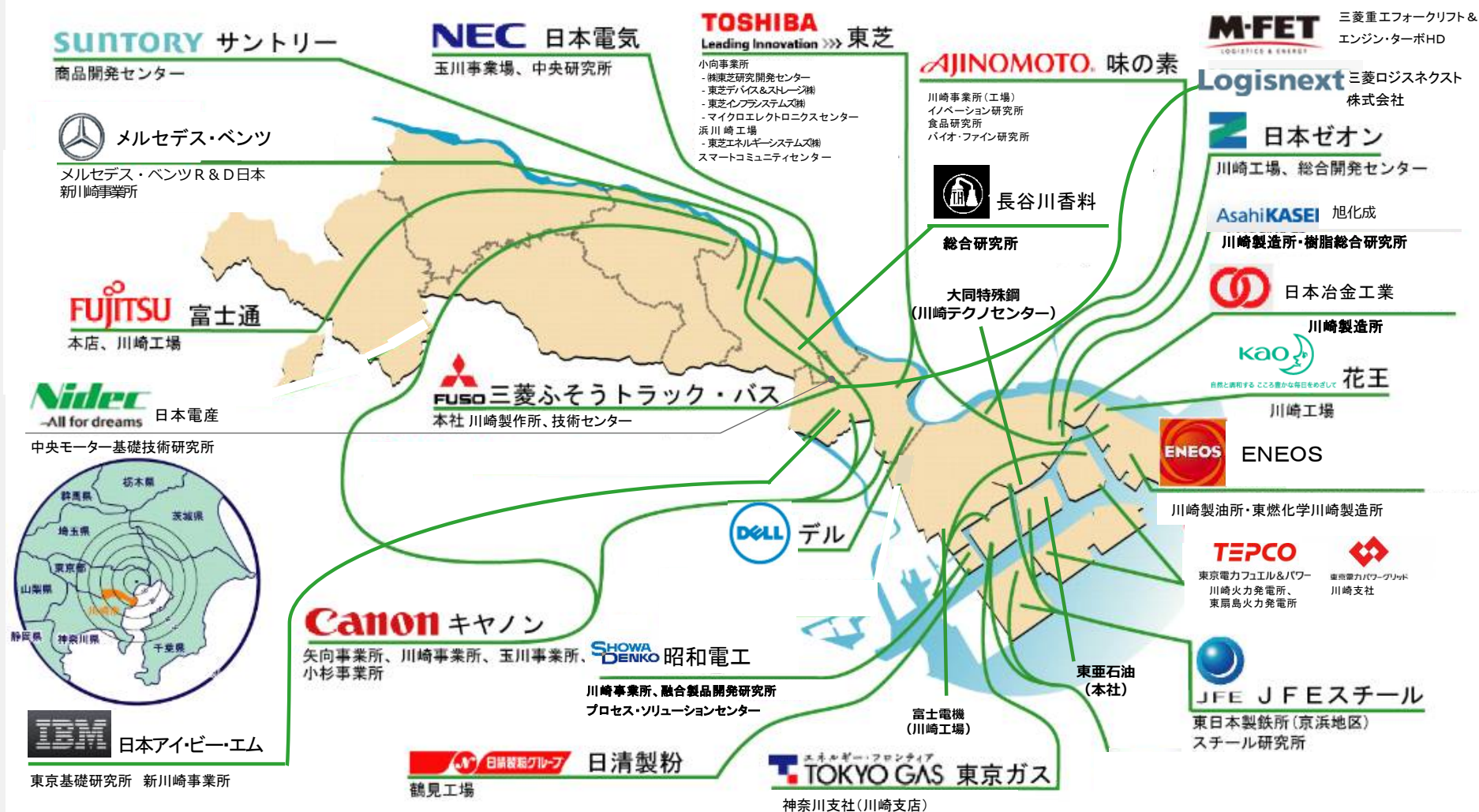
世界的企業の立地

3つのサイエンスパーク

研究開発機能の集積

川崎市に立地する世界的企業

8



新産業を創出する3つのサイエンスパーク 9

KSP

かながわサイエンスパーク (KSP)

<http://www.ksp.or.jp/>

日本初 (1989年) かつ日本最大級
117社が入居 (2020年2月現在)

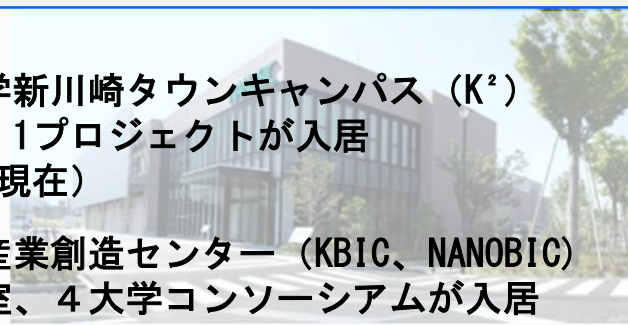


新川崎・創造のもり (K²、KBIC、NANOBIIC、AIRBIC)

KBIC
NANOBIIC

《産学連携型》

- ・慶應義塾大学新川崎タウンキャンパス (K²)
13研究室、1プロジェクトが入居
(2020年2月現在)
- ・かわさき新産業創造センター (KBIC、NANOBIIC)
37社4研究室、4大学コンソーシアムが入居
(2020年2月現在)



Th!nk
Techno Hub
INnovation
Kawasaki

テクノハブイノベーション川崎 (THINK)

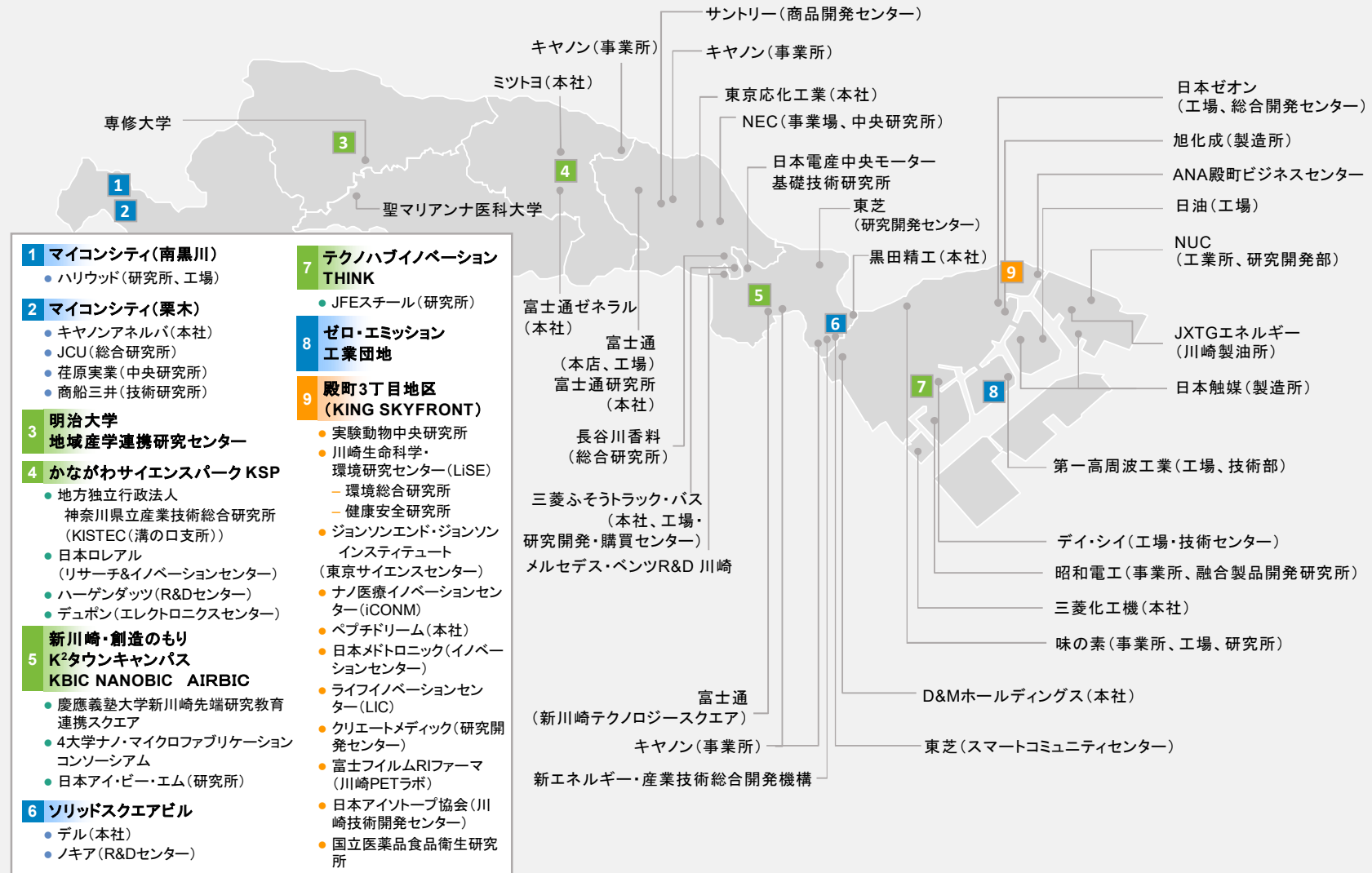
<http://www.techno-hub-innovation.com/>

《民間主導型による産学連携研究を実現するサイエンスパーク》
57社が入居 (2020年2月現在)



市内研究開発機関等

10

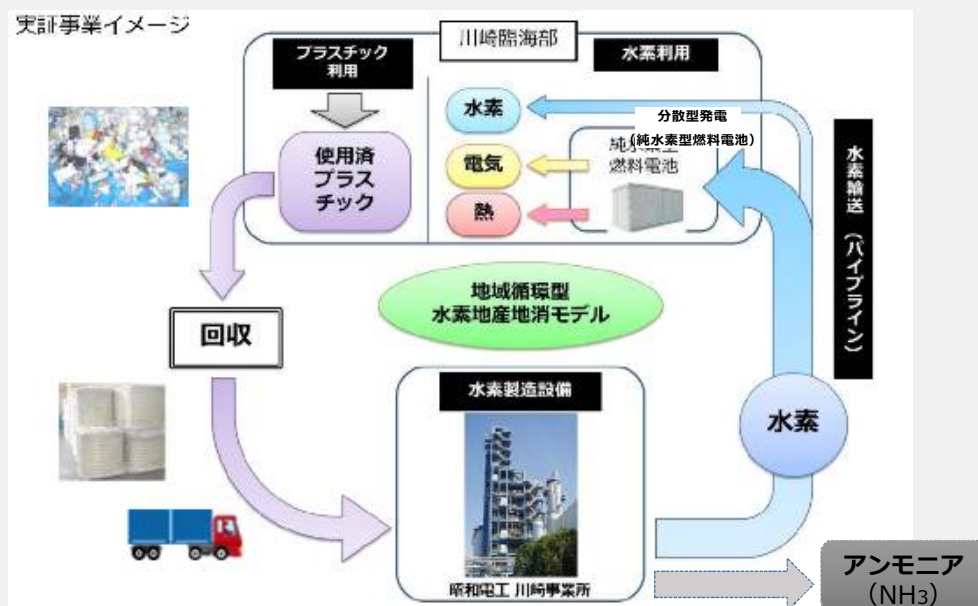


使用済プラスチック由来低炭素水素を活用した 地域循環型水素地産地消モデル実証事業

11

◎循環型水素社会を目指した「地域循環型水素地産地消モデル」の構築

実証事業イメージ



大型純水素燃料電池
(出力:100kW)



東急REIホテル
(国際戦略拠点キングスカイフロントA地区)
平成30年6月1日オープン

- ◆地域で発生する使用済プラスチックから水素を製造し、川崎臨海部の需要者にパイプラインで輸送、純水素型燃料電池を活用しエネルギー利用する水素の地産地消モデルの構築
- ◆昭和電工が実用化した世界で唯一のプラスチックケミカルリサイクル施設を有効活用
- ◆使用済プラスチックを原料とする水素の製造方法により、環境負荷を大幅に低減
- ◆環境省「平成27年度地域連携・低炭素水素技術実証事業」に採択

低CO₂川崎ブランドの認定

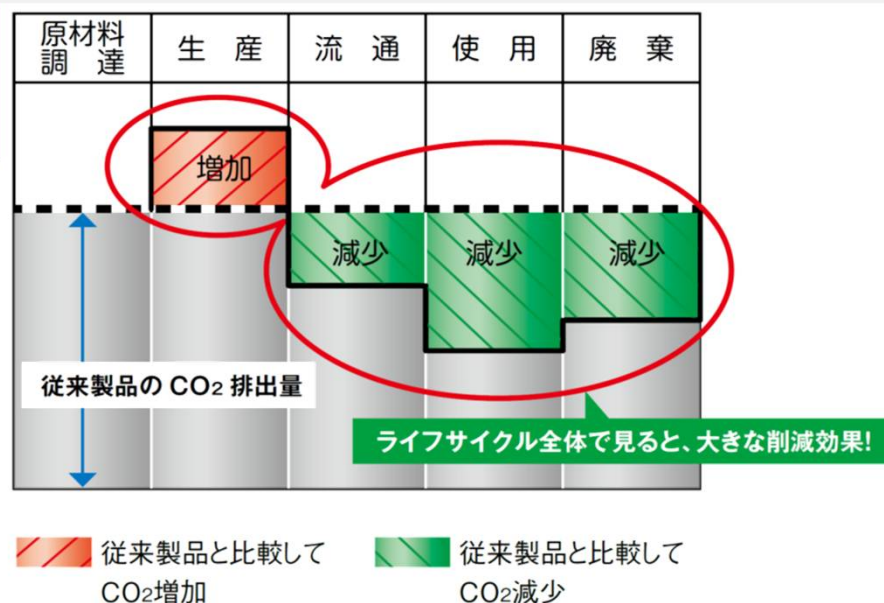
12

事業概要

- 原材料の調達から廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体で温室効果ガス排出量の削減に貢献する川崎発の製品等を「低CO₂川崎ブランド」として認定
- 認定製品等の普及促進に向けて情報発信
- ブランドを通じて地球全体での温室効果ガスの削減に貢献



ライフサイクル全体のCO₂削減効果



低CO₂川崎ブランド'20



マルチパラメータ・フェーズドアレイ気象レーダ (TW4498) : 東芝インフラシステムズ(株)

大賞

東芝インフラシステムズ 株式会社 小向事業所

マルチパラメータ・フェーズドアレイ
気象レーダ(TW4498)

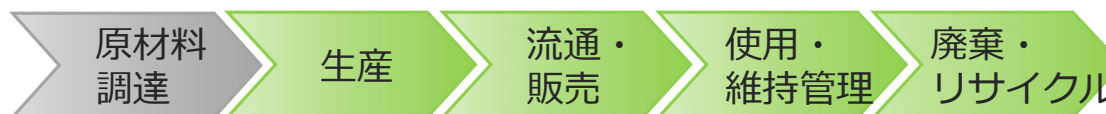
■サービスの概要

・『迅速な雨雲把握』と『正確な雨量観測』という2つの目的を1つのレーダで実現させ、集中豪雨などの兆候を迅速かつ正確にとらえることを可能にした気象レーダ

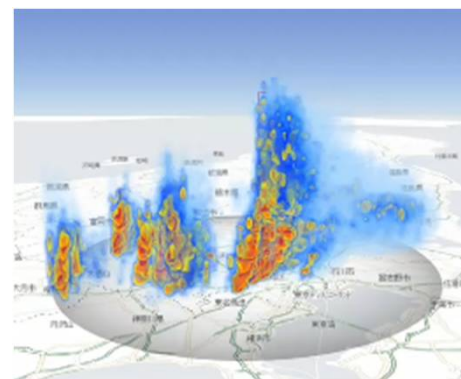
・従来の2台分の機能となる二重偏波パッチアンテナを採用することにより、省エネ化・省資源化を図り、CO₂排出量を削減。

【ライフサイクルでの削減効果】

従来の単偏波型のフェーズドアレイ気象レーダ2台と比較して、約24%のCO₂排出量を削減



※ 各ライフサイクルにおけるCO₂排出量が、緑は減少、赤は増加、灰色は変化なしを示します。



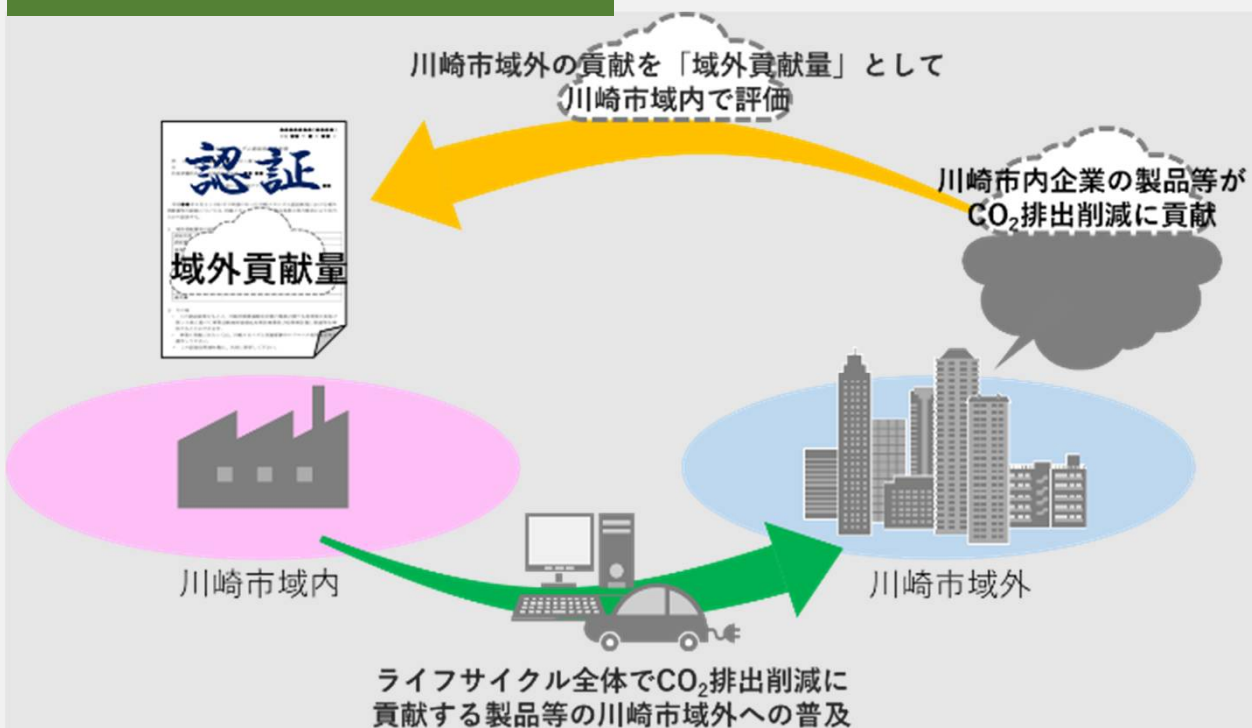
川崎メカニズムの認証

14

事業概要

- ライフサイクル全体を通じて、川崎市域外で温室効果ガスの削減に貢献している量(域外貢献量)を認証

域外貢献量のイメージ



情報発信の様子





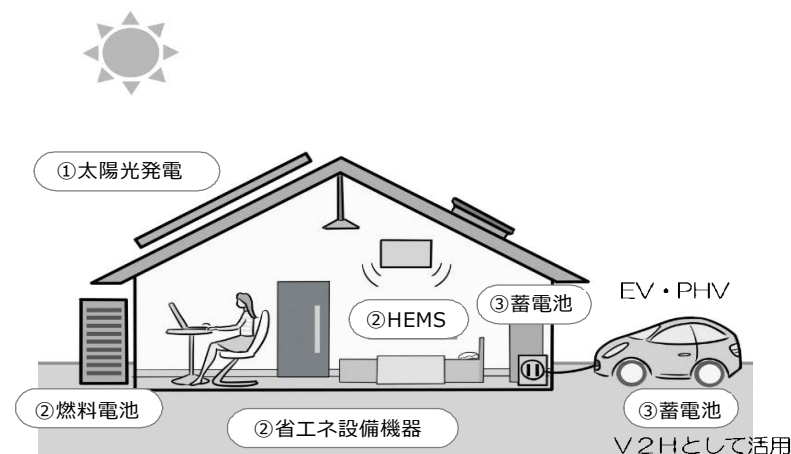
再生可能エネルギー等の普及について

再生可能エネルギー普及等の取組

市民向け

スマートハウス補助金

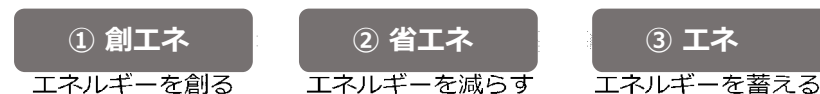
太陽光発電システム、家庭用燃料電池・蓄電システム、ZEH等



事業者向け

市内事業者エコ化支援事業（中小規模事業者向け）

- ①再生可能エネルギー源利用設備の導入
（太陽光発電設備、太陽熱利用設備、バイオマス利用設備等）
- ②省エネルギー型設備の導入



大規模太陽光発電所(メガソーラー)の取組

稼働から3年間の実績

- 浮島太陽光発電所では想定値の約1.3倍を発電。
（一般家庭約2,900軒分の年間使用電力量に相当）
- 扇島太陽光発電所では想定値の約1.1倍を発電。
（一般家庭約4,700軒分の年間使用電力量に相当）



発電所名	浮島太陽光発電所	扇島太陽光発電所
所在地	川崎市川崎区浮島町	川崎市川崎区扇島
最大出力	7,000kW	13,000kW
年間発電電力量	約740万kWh（想定）	約1,370万kWh（想定）
CO2排出削減量	約3,100t	約5,800t
営業運転開始	平成23年8月10日	平成23年12月19日

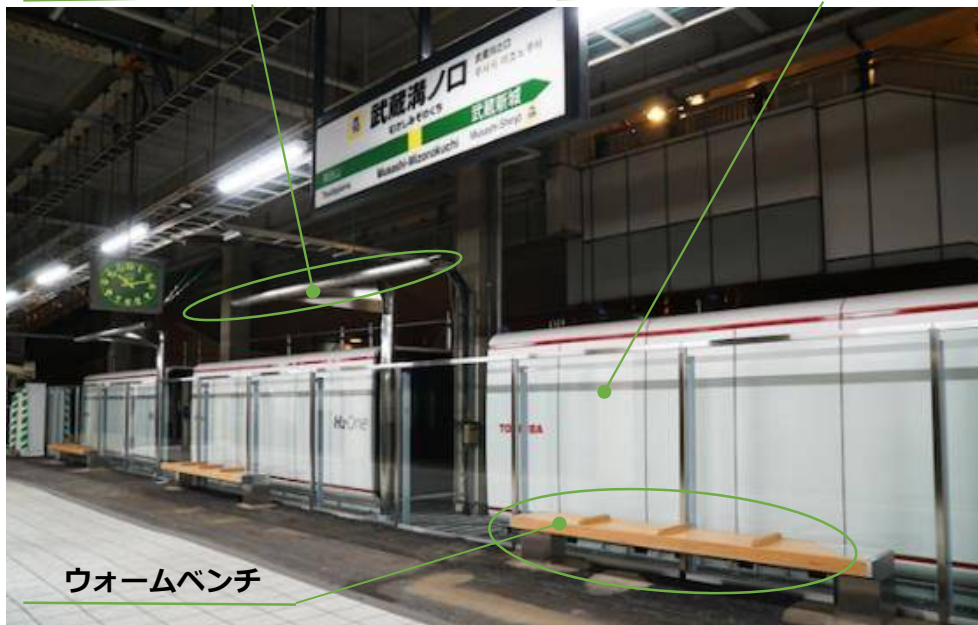


環境技術を活かした取組

◎JR南武線 武蔵溝ノ口駅「エコステ」モデル駅の整備（東日本旅客鉄道株式会社）

ドライミスト

自立型水素エネルギー供給システム「H2One」



ウォームベンチ



デジタルサイネージ（駅改札付近）



緑化・自然素材活用



太陽光パネル

- ◆鉄道事業者で初めて再生可能エネルギー由来の水素（CO₂フリー水素）を活用
- ◆災害時は、一時滞在場所となるコンコースやトイレの一部に電力を供給予定
- ◆エコメニューの導入により、CO₂排出量を20%以上削減
 - ・創エネ 自立型水素エネルギー供給システム導入
 - ・省エネ 照明のLED化、高効率空調機器導入
 - ・エコ実感 エコ表示盤、エコ待合スペース設置
 - ・環境調和 自然素材活用、緑化



ホーム整備前



ホーム整備後

廃棄物発電を活用した新たな取組



廃棄物発電の活用



廃棄物発電を活用した「ゼロ・エミッションシステム」によるEVごみ収集車（電池交換型）の導入

<2019年2月 日本初！>



川崎市のごみ焼却処理施設の発電量

・市のごみ焼却処理施設では、年間で1.1億kWh以上の電気を発電しており、世帯数に換算すると、3万世帯以上の年間使用電力※に相当 ※1世帯3,600kWh/年で計算

次世代自動車の普及促進

- 電気自動車、燃料電池自動車などの次世代自動車の普及促進
- 『燃料電池自動車(MIRAI)』を市公用車に率先導入し、水素利用を身近に感じていただけるような様々なイベントでも活用。

➤電気自動車やハイブリッド自動車など、 環境性能の高い自動車の率先導入の取組

- 公用車における電気自動車などの率先導入
(2020年3月現在)
 - ・電気自動車: 10台
 - ・九都県市指定低公害車: 1,500台(90%)



➤市民生活への水素利用の取組推進

- 燃料電池自動車「MIRAI」を公用車に導入



- 川崎市内北部初となる水素ステーションオープン(令和3年6月)



市役所の率先取組

○市公共施設初の再生可能エネルギー100%電力(地産)の導入

- ・川崎バイオマス発電所で発電した再生可能エネルギー100%電力を高津区役所等に導入。合わせて、LED化を行った結果、令和3年4月に前年同月比で、約15%の電気料金の削減を達成

○みんなで一緒に自然の電気

- ・近隣の都県市と連携し、環境にやさしい再生可能エネルギー由来の電気を家庭でお得に購入できる取組を実施

○再エネ100宣言 RE Action※ アンバサダー就任(2020年2月)

- ・RE Actionへの賛同支援を表明し活動のPRを通じて、管轄地域内の団体等に参加を推奨することで各地域において取組の輪を広げる。

※再エネ100宣伝 RE Action・・・
使用電力を100%再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示すこと





市民・事業者との協働の取組の推進

市民・事業者との協働の取組の推進

市民、事業者、行政が一体となって地球温暖化対策に取り組むために設置された「川崎温暖化対策推進会議」（CC川崎エコ会議）のネットワークを中心に、各主体の協働により環境配慮の取組を推進。



➤ 地球温暖化防止活動推進員等の市民ボランティアによる広報啓発活動



川崎市地球温暖化防止活動推進センター

- ・市民、事業者等の協働取組の中間支援組織として活動
- ・高津市民館内の情報拠点「CCかわさき交流コーナー」運営



かわさきエコ暮らし未来館

- ・ 2011年 8 月川崎区浮島町にオープン
- ・ 地球温暖化、再生可能エネルギー、資源循環について楽しみながら学べる環境学習施設
- ・ 2018年 4 月に累計来館者数 1 0 万人を突破
- ・ 2020年 2 月に初の展示リニューアルを行い、
水素エネルギーについて学べる体験型コーナーを新設



市民・事業者との協働の取組の推進

事業者等との協働による広報イベント



エコ暮らしこフェア



「COOL CHOICE」宣言を行う
川崎フロンターレの小林選手

COOL CHOICEとは？

省エネ・低炭素型の製品への買換・サービスの利用・ライフスタイルの選択など、地球温暖化対策に資する「賢い選択」をしていこうという取組のことです。



気候変動への取組の推進

○川崎市気候変動情報センターの開設

- ・地域における気候変動影響や適応に関する情報の収集・整理及び調査研究等の機能を担う拠点として令和2年4月、環境総合研究所内に設置



環境総合研究所外観

○熱中症対策

- 健康情報の提供による普及啓発等実施

○治水・水害対策

- ・時間雨量 50 mmの降雨に対応できる河川改修などを推進

○感染症対策

- ・蚊のサーベイランス等、蚊媒介感染症対策を推進
- ・蚊の発生を防ぐ対策の実施に向けた普及啓発を実施

○暑熱対策

- ・暑熱に関する調査・観測を実施

熱中症対策に
日傘も有効！



- 1 川崎市の地球温暖化対策について
- 2 脱炭素戦略について



川崎市地球温暖化対策推進基本計画【平成30(2018)年3月策定】

- 2030年度に基準年度比（1990年）で**30%以上削減**
- 2050年度に**80%削減**

市長「脱炭素化」表明【令和2(2020)年2月】

- 2050年までに、**CO2排出実質ゼロの脱炭素社会**の実現を目指す

脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」【令和2(2020)年11月】

- 2050年CO2排出実質ゼロに向けた考え方、先導的な取組を示す
- 2030年のマイルストーンを明示

脱炭素戦略について

30

- 気候変動の影響は今まさに私たちの生活に大きな影響を与えている。川崎市では、2050年の脱炭素社会の実現を目指すため、令和2年11月、**脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」**を策定
- 戦略の策定は、政令指定都市の中では横浜市に次いで **2 番目**
- 事業者・団体等（計**304**者）から**御賛同**いただきながら脱炭素化に向けた戦略を策定したのは、地方公共団体の取組としては**日本初！**



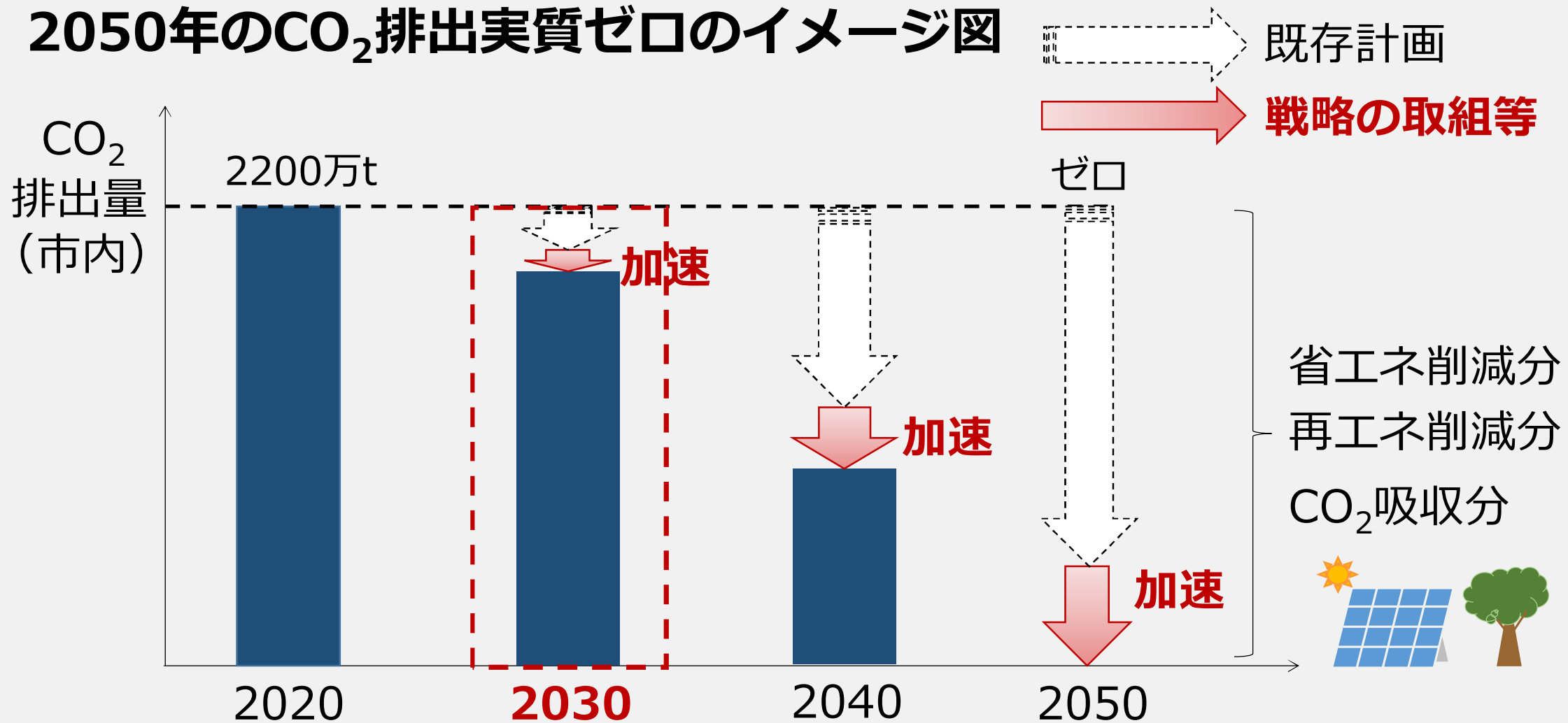
本戦略の特徴

- | | |
|------|---|
| 特徴 1 | 2030年マイルストーン（中間目標地点）の設定 |
| 特徴 2 | 脱炭素モデル地区の設置 |
| 特徴 3 | 2030年までに 主要な市公共施設の使用電力を再エネ100% |
| 特徴 4 | 脱炭素化に取り組む企業への新たな支援・評価手法の構築 |
| 特徴 5 | 本戦略の巻末に、 賛同事業者一覧を掲載 （計304者、R2.10.16時点） |

※賛同事業者のCO₂排出量の合計は市域のCO₂排出量全体の**約60%に相当**

脱炭素戦略の概要（CO₂実質排出ゼロとは） 32

2050年のCO₂排出実質ゼロのイメージ図



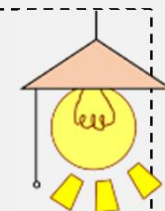
○2030年マイルストーン（中間目標）

川崎市地球温暖化対策推進基本計画に基づく目標

（2030年度までの約10年間で約250万t-CO₂削減）に加え

2030年度までの約10年間でさらに100万t-CO₂※の削減に挑戦

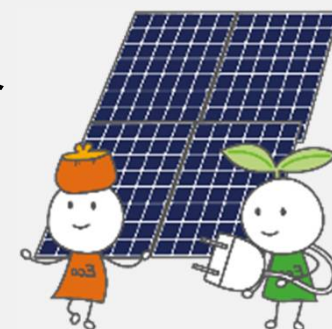
※ 市内一般家庭の約**69**万世帯（川崎市の全世帯数の約**93%**）
の年間電力消費量に相当



2050年に脱炭素社会を実現した状態の具体例 1

○家庭・オフィス部門

- ・ 建物のゼロエネルギー化が定着
- ・ 再生可能エネルギーを基幹電源とする電力が一般普及
- ・ コンパクトシティの実現、木造建築の一般化 など



○運輸部門

- ・ 市内を走る乗用車などが電気自動車や燃料電池車に
- ・ 全ての公用車を電気自動車や燃料電池車に など

2050年に脱炭素社会を実現した状態の具体例 2

○廃棄物部門

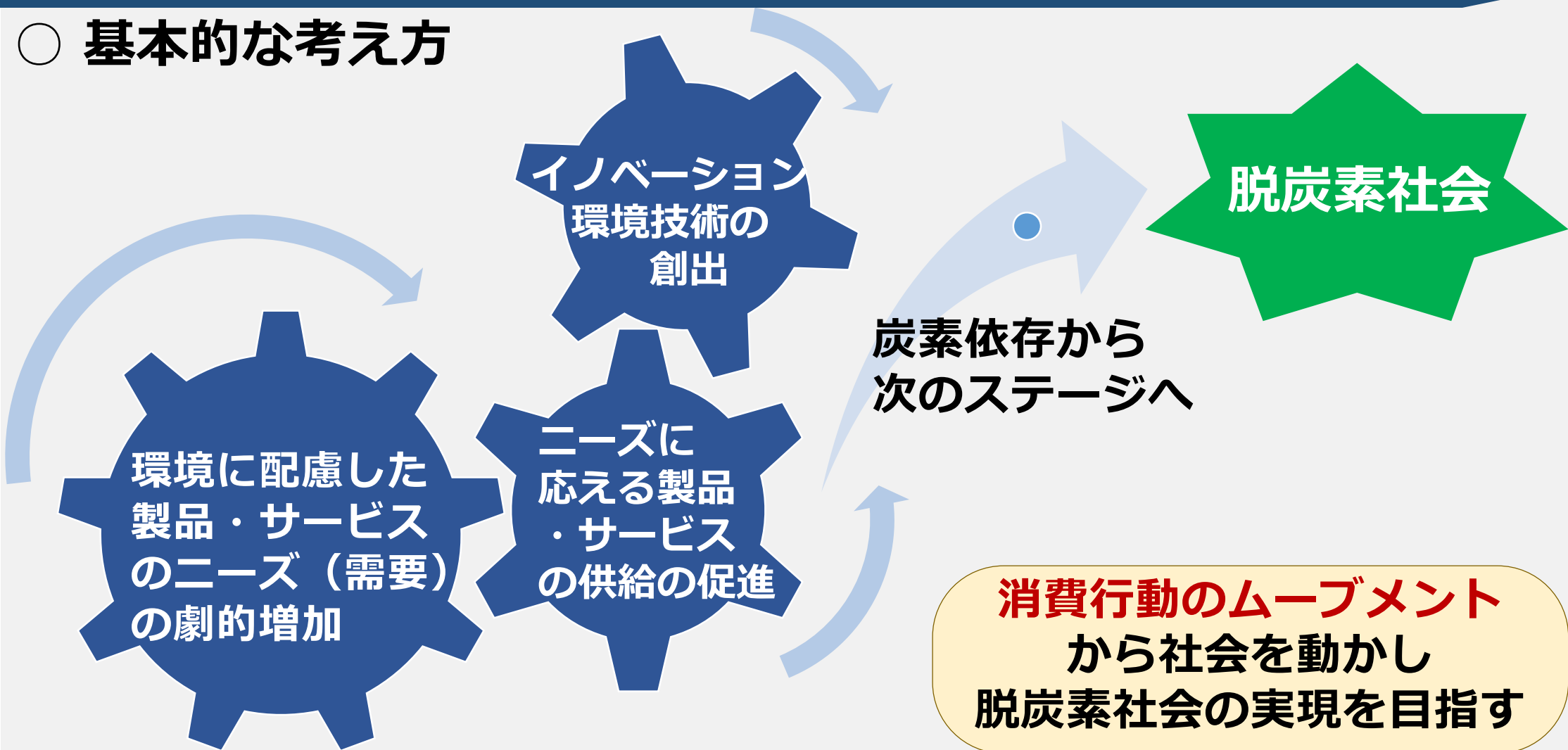
- ・ ワンウェイプラスチックからの脱却
- ・ バイオマス素材への転換
- ・ 食品ロスを出さない行動の定着 など



○産業部門

- ・ 脱炭素化に取り組む企業の一層の集積
- ・ 環境分野のイノベーションやビジネスモデルが市域を超えて牽引
- ・ 水素エネルギーネットワーク社会の構築 など

○ 基本的な考え方



取組の柱及び先導的に進める取組

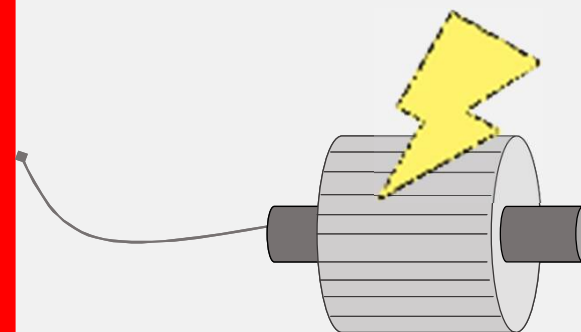
37

取組の柱	2030年に向けた先導的なチャレンジ	その他の取組例
第Ⅰの柱	1 (仮称)脱炭素モデル地区の創設など「脱炭素化に向けたまちづくり」の推進 2 将来世代に繋げていくための市民・事業者の行動変容に繋がる取組の推進 3 民間事業者等と連携した廃棄物発電等の再生可能エネルギーの地域活用 4 プラスチック資源循環の取組強化 5 気候変動適応の取組推進 6 脱炭素化に資するグリーンファイナンスの推進	① 市域の再生可能エネルギーの利用拡大 ② 市民・事業者の率先行動に向けた取組推進 ③ 産業廃棄物の処理におけるCO₂の発生抑制 ④ スマートムーブの推進 ⑤ 協働の取組による緑の保全・創出・育成及び活用 ⑥ 環境配慮制度の充実
第Ⅱの柱	1 公共施設への再生可能エネルギーの積極導入とエネルギー使用量の大幅な削減 2 民間事業者等と連携した廃棄物発電等の再生可能エネルギーの地域活用（再掲） 3 公用乗用自動車への電動車の導入の加速化 4 気候変動適応の取組推進（再掲） 5 職員の率先行動の徹底	① 先進的な環境技術の積極的活用 ② 環境配慮制度の充実（再掲） ③ グリーン購入の徹底 ④ 入札・契約制度による環境配慮の促進 ⑤ 港湾・物流活動のCO₂削減に向けた取組の推進
第Ⅲの柱	1 グリーンイノベーションの機能強化と国際貢献の推進 2 「臨海部ビジョン」の推進による低炭素型インダストリーエリア構築に向けた取組 3 「川崎水素戦略」の推進による水素社会の実現に向けた取組 4 脱炭素化に取り組む企業への新たな支援・評価手法の構築 5 脱炭素化に資するグリーンファイナンスの推進（再掲）	① 環境技術と環境対策ノウハウを活かした事業者の取組の推進 ② 川崎エコタウンにおける脱炭素化に資する取組のショールーム化 ③ 市域の再生可能エネルギーの利用拡大（再掲）

消費行動のムーブメントの動力として3つの柱の取組推進

第Ⅰの取組の柱（動力①）

市民・事業者などあらゆる主体の参加
と協働により気候変動の緩和と適応に
取り組む



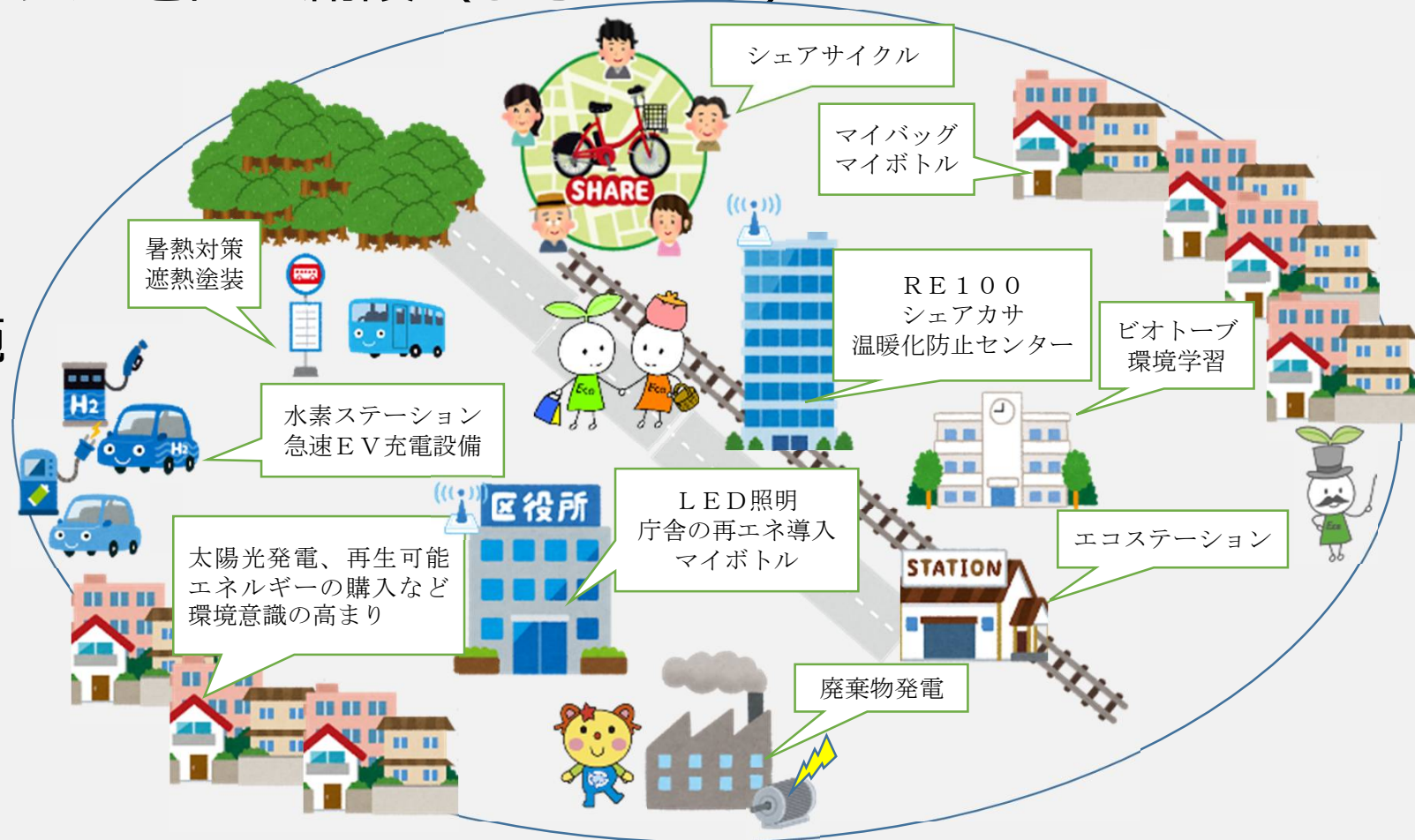
先導的に進める取組（例 1）

39

第 I の柱

脱炭素モデル地区の創設（まちづくり）

- ・ 身近な取組に参加
- ・ 効果利便性を実感
- ・ 取組を集中的に実施



脱炭素モデル地区 ～脱炭素アクションみぞのくち～

掲載情報は令和2年10月末時点のものです。

再生可能エネルギー100%への転換

脱炭素モデル地区では、市民生活や商業活動で使用電力を100%再生可能エネルギーに転換するチャレンジや、家庭でオトクに再生可能エネルギー由来の電力を購入できるキャンペーンを実施します。

- ① 高津区役所の省エネと再生可能エネルギー100%への転換
照明のLED化により消費電力が全体の15%削減されるとともに、電力の再生可能エネルギー100%への切替や公共車の電動化を目指します。
- ② 商業施設における再生可能エネルギー100%への転換
マルイファミリー高津では、使用電力の再生可能エネルギー100%を達成し、さらにノクティブラザ全体での再生可能エネルギー100%調達を目指します。
- ③ みんなでいっしょに自然の電気
近隣の都市と連携し、環境にやさしい再生可能エネルギー由来の電気を家庭でオトクに購入できる取組を実施しています。



小学校へ市出前授業

行政や市民活動団体の連携した取組

- ⑨ 川崎市地球温暖化防止活動推進センター
地球温暖化防止活動の中間支援拠点として、地域の様々な活動団体（市民活動団体、事業者等）及び川崎市地球温暖化防止活動推進員と連携し、普及啓発イベントやセミナー、小学校等への出前授業、ウェブを活用した情報発信等を通して、地球温暖化対策の重要性について啓発活動及び取組活動を行っています。
- ⑩ エコシティがっつ
地球温暖化に対する緩和策と適応策、生物多様性の保全などを柱に、市民活動団体、事業者等と連携しながら環境保全活動や体験学習を実施しています。高津区内の小中学校等でのピオトーブを活用した環境学習支援、緑ヶ丘公園内での自然の備わいづくり、流域での自然の地形（大地のデコボコ）を考える小学校敷地内ごと3D北プロジェクトなどを実施中です。

プラスチック資源循環の取組

川崎市では、プラスチック資源循環への対応方針を策定し、プラスチックごみの削減と資源の循環に取り組んでいます。脱炭素モデル地区では、市民生活等へのレジストポットの導入促進や資源回収など、事業者と連携して取組を推進しています。

- ④ 紙炭素型プラスチックリサイクルシステムの取組
高津区役所のプラスチックの製品化に向けた実証実験において、脱炭素モデル地区内の店舗からも利用可能なプラスチック袋等の回収を行っています。

ごみ焼却時の熱を利用した南薬物発電

- ⑤ 令和5年度に竣工予定の焼却増センターでは、ごみを燃やした時の熱を利用して最大14,000kWのCO₂排出量ゼロの電気を発電し、場内で使用するほか、一般家庭13,000世帯相当分の電力をまかなうことができます。

電気自動車や燃料電池自動車の普及に向けた取組

走行時CO₂が排出しない電気自動車や燃料電池自動車など、環境にやさしい自動車に需要が伸びています。

- ⑥ 水素ステーションの新設
本年、燃料電池自動車（水素を燃料として走行する自動車）に水素を供給する「水素ステーション」（市内3か所）が川崎地区以外ではじめて高津区緑ヶ丘に開設予定です。
- ⑦ 電気自動車の普及
民間事業者と連携して、電気自動車用の急速充電器の実証を実施し、電気自動車のさらなる普及に取り組みます。

これからのまちづくり、行動変容に向けた取組

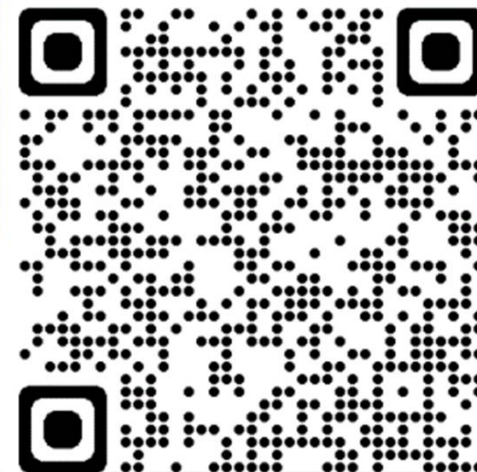
- ⑧ 数字が公けが適宜、CO₂削減、資源循環、自然共生など暮らしやすいまちづくりのための共同研究を実施します。また、若年層向けの意見交換会や行動変容につながる新たな参加型の取組も実施します。



シェアリング・エコノミー

シェアリング・エコノミー（不特定多数の提供者がモノ・サービスを提供し、利用者がそれを利用できるサービス）は、消費者によって経済活動の新たな選択手段として消費生活を豊かにするとともに、モノや空間等の資源の効率的な活用による天然資源投入量や廃棄物発生量の削減、移動手段や空間の共有等によるCO₂排出量の削減といった環境面の効果も期待できます。

- ⑪ シェアサイクル
自転車はCO₂排出ゼロのエコな移動スタイルです。シェアサイクルを活用すれば、自転車のサイクルポート間で気軽に自転車を利用することができます。
- ⑫ カーシェアリング
1台の自動車を実験の会員が共同で利用する新しい利用形態です。車を必要な時だけ使うようになると、1台あたりの年間総走行距離が減少し、CO₂排出削減に貢献できます。
- ⑬ 車のシェアリング
雨天の雨でも安心！シェアサービスポットで車をシェアすることで、ビニール車の使用頻度を減らすことができます。



脱炭素アクションみぞのくち

41

○再生可能エネルギー100%への転換

- ・高津区役所の省エネと再生可能エネルギー100%への取組
- ・商業施設における再生可能エネルギー100%への取組
- ・みんなでいっしょに自然の電気

○プラスチック資源循環の取組

- ・低炭素型廃プラスチックリサイクルシステムの実証

○ごみ焼却時の熱を利用した廃棄物発電

- ・令和5年度に竣工予定の橋処理センターでごみを燃やした時の熱を利用した発電

○電気自動車や燃料電池車の普及に向けた取組

- ・水素ステーションの新設
- ・急速充電器の実証

○脱炭素アクションみぞのくち推進会議の設立

○行政や市民活動団体の取組

- ・川崎市地球温暖化防止活動推進センター
- ・エコシティたかつ

○鉄道の取組

- ・JR武蔵溝ノ口駅「エコステ」
- ・東急電鉄「SDGsトレイン」

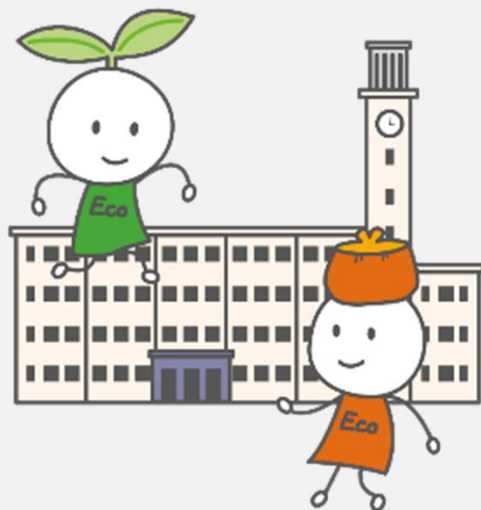
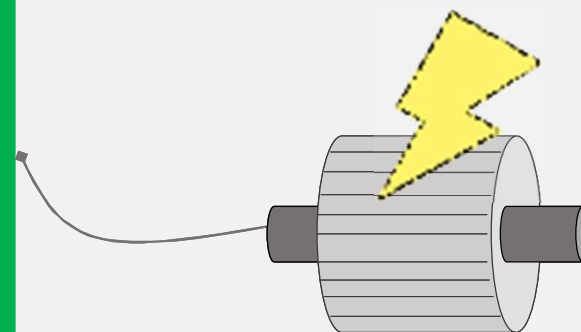
○これからのまちづくり、行動変容に向けた取組

- ・産学公民が連携し共同研究、若年層向けの意見交換会や参加型の取組

消費行動のムーブメントの動力として3つの柱の取組推進

第Ⅱの取組の柱（動力②）

川崎市役所自らが率先して
行動を示す



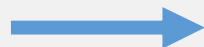
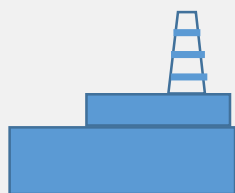
先導的に進める取組（例 2）

43

第Ⅱの柱

公共施設への再生可能エネルギーの積極的導入、省エネ

市の廃棄物発電
3 処理センター
(バイオマス発電)

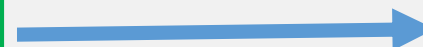


民間活用による
電力需給管理

(例)

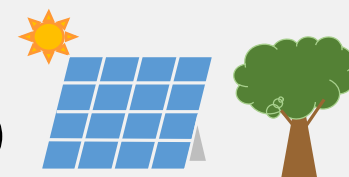
- 地域新電力会社
- 自己託送
- 需給管理委託等

民間活用による
電力調達



公共施設
(本庁舎、区役所、学校等)

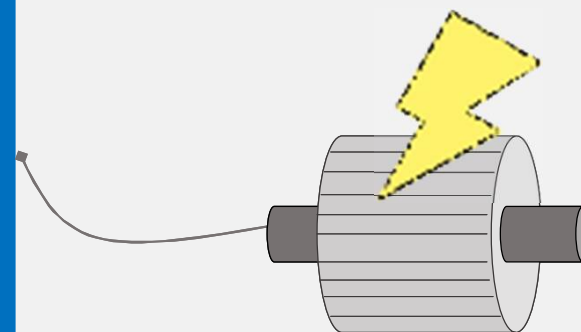
民間事業者等が作る再生可能エネルギー（太陽光、バイオマス発電等）



消費行動のムーブメントの動力として3つの柱の取組推進

第Ⅲの取組の柱（動力③）

環境技術・環境産業の集積等の強みを
最大限に活かし川崎発のグリーン
イノベーションを推進する

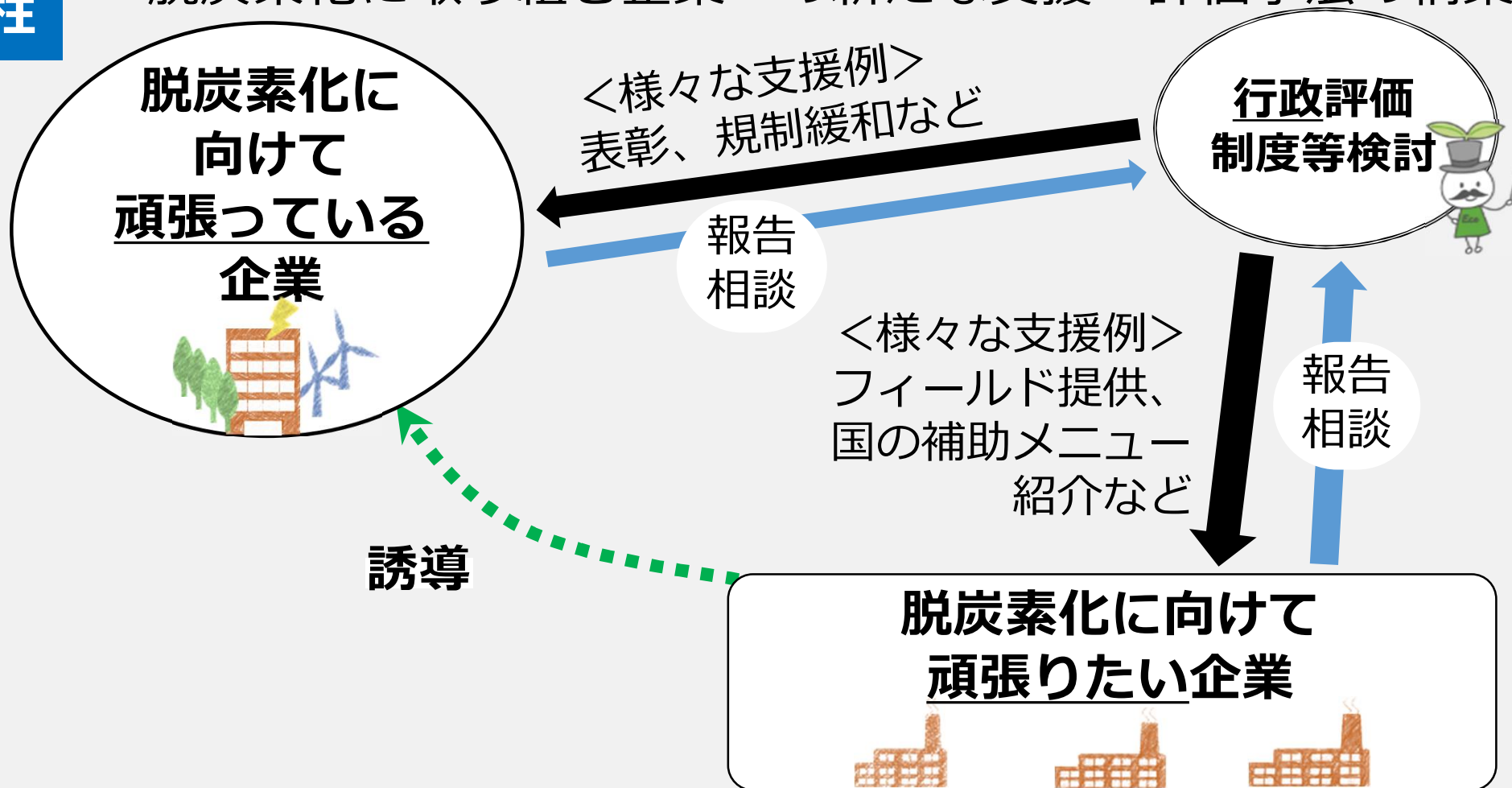


先導的に進める取組（例3）

45

第Ⅲの柱

脱炭素化に取り組む企業への新たな支援・評価手法の構築



脱炭素社会の実現に向けて
まずは戦略に掲載する取組を先導的に進めていく



**市民・事業者・行政が一丸となって脱炭素社会の実現に
向けた新たなチャレンジを次々と展開することが大切**

脱炭素戦略と川崎市地球温暖化対策推進基本計画との関係図 ～現在、地球温暖化対策推進基本計画を改定しています～

2018年
低炭素化の取組

2020年
脱炭素化の取組の
スタート地点

2022年以降
脱炭素化の取組を
計画として位置づけ
2021年4月
改定作業開始

川崎市地球温暖化対策推進基本計画

- ・ 2010年10月策定(2018年3月改定)
- ・ 2050年CO₂等**80%削減**を長期的水準とした**2030年の目標**や、具体的な取組を位置づけ、計画的に進行管理



かわさきカーボンゼロチャレンジ2050

- ・ 2050年CO₂**100%削減**に向けた**2030年マイルストーン**や、基本的な考え方、先導的な取組などを掲載

川崎市地球温暖化対策推進基本計画（改定）

- ・ 脱炭素戦略を踏まえ、2050年CO₂**100%削減**に向けた**2030年の目標設定**や基本計画に基づく実施計画を策定し具体的な取組を位置づけ、計画的に進行管理

- ・ 2050年のCO₂排出実質ゼロを達成できなかった場合は将来世代に大きなリスクを残す。2030年までの残り約10年間で勝負の10年間
- ・ 消費行動のムーブメントを起こし、社会を動かしていくことで、脱炭素社会の実現を目指していく
- ・ 市民、事業者、行政が一丸となって脱炭素社会の実現に向けた新たなチャレンジを次々と展開することが大切



御清聴ありがとうございました



脱炭素社会に向け、世界の動き、国の動き、また大企業を中心とした取組が加速化しています。

一方、日常生活の中で、市民、事業者のみなさんが脱炭素の取組を当たり前のこととして知り、行動していくためには、誰がどのようにすれば取組が進むでしょうか？